



あかつき新聞

第98号

2026年
1月あかつき印刷
利用者懇談会世話人会〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-25-2 APビル
TEL03-3497-0531 FAX03-3497-0043
ホームページ <https://www.aik.co.jp/>

武力に頼らない真の平和を

安倍政権の中でも右寄りと言われていた高市早苗さんが自民党党首となり、総理大臣になりましたが、総理就任したばかりの高市氏が迎えた、アメリカ大統領ドナルド・トランプ氏の訪日。そして、日米首脳会談。しかし、会談後、慣例どなつている共同声明はありませんでした。

じつは、今回の日米首脳会談での取り決めは、あまり公表されていないのです。その場で何が話し合われたのか。これまで日本に突きつけているブラックボック

額。高市氏はトランプ氏の訪日を前に、さらなる防衛費増を視野に入れた安全保障関連3文書の前倒し改定を指示する方針を示しました。本来、27年度に達成するはずの防衛予算11兆円を本年度中の補正予算で組み込んでい

く。現在、防衛予算是9兆円まで増えていますので、それに2兆円プラスするのがアメリカと約束した大きな内容だと約束しています。

関税問題では、関税の負担を日本がどう引き受けしていくのか。加えて、80兆円の対米投資についてです。

そして、防衛費の増額。

日本が責任を持つよう

ます。軍事力なくして

平和はない。でも、アメリカは自分の

財布から金は出したくない。だから、日本が金を出しなさいといふ

ことです。

このままではないで

あります。アメリカは日本に兵器を作らせて安く

買う上げようといふことでしょう。

これは個人的見解で

すが、アメリカは日本

が海外に輸出できるよ

う動いているといわ

ています。

このままではないで

あります。アメリカは日本

が海外に輸出できるよ

う動いているといわ

っています。

このままではないで

あります。アメリカは日本

が海外に輸出できるよ

う動いているといわ



上段左から 田川誠(画伯) 深澤慎也(画伯) 津田利之(ラジオ局ディレクター) ドリアン助川
下段左から 助川紗和子 藤崎美智子 廣井みどり



2015年に全国公開された映画「あん」の制作スタッフとして関わったことが、私の人生の大きな転機となりました。口ヶ地となつた国立ハンセン病療養所多磨

全生園の中には、入所の人にも一般の人にも開かれた入所者自治会が運営する「レストラン和」がありました。

しかし、撮影が終了した頃にレストランは閉店。入所者自治会長の佐川修さんから「入所者にとってはなくてはならない一般のお客さんを呼んで営業を続けて欲しい」と経営を依頼されました。私は迷いましたが樹木希林さん

8年前私は、「全国

ハンセン病療養所入所者協議会」の事務局長を務めていた藤崎陸安（みちやす）さんと再婚しました。入籍のときには今生きていた。仲間のために働くこと。そしてハンセン病患者が体験した過酷な偏見や差別が二度と繰り返さないよう伝えています。

田川誠さん・深澤慎也さんは人権学習のきっかけとなる紙芝居を作る夢を持ちました。6年の歳月が経ち、絵は友人のペトロアンドヨゼフ（田川誠さん・深澤慎也さん）が描いてくださり、脚本はドリアン助川さんが心に沁みる言葉を紡いでくださいました。2023年、夫は完成を見ることなく旅立ちました。

亡くなる直前まで、「憲法違反の裁判により死刑が執行された菊池事件でのF氏の名誉回復をしければハンセン病問題の解決は終わ

らない」と語っていました。人権問題の根底には共通して偏見と差別があると思います。ハンセン病も、新型コロナ感染症のときも、偏見や差別が生まれました。

一人でも多くの人が、この紙芝居「わたしの命の物語」に触れて、生きやすい社会を

考え、目指してほしいと願っています。

差別や偏見のない社会を目指してできること

藤崎美智子

映画評 — 楽園のゲルニカ —

ペリリュー



パラオ諸島の南部、自然豊かで美しいペリリュー島で1944年9月15日から始まった日米の戦闘では、日本軍1万名のうち最後まで生き残ったのは34名のみで、米軍も4万名のうち1万6千名が戦死しました。

そのペリリューにいた21歳の田丸は、絵が得意だったために亡くなつた兵士の「最後の雄姿」を遺族に伝えるための記録係「功績係」を命じられます。砲撃や爆撃、銃撃によって無

本にも参加。監督は久慈悟郎。(伴)



絵手紙を月に2通も描きくれる季節の花の絵四年となりました。知り合いが私のことを詠んだ短歌です。短歌会の例会で手紙・葉書のお題だったと教えてくれました。

絵手紙を出すたびに葉書やメールで近況などを、また切手や食べ物を送ってくれる人もいます。私はその一つひとつのが好意に感謝をしながら一日に一枚の花を写生して絵手紙に描いて、送っています。そして、絵手紙でつながった交流をこれからも大切にしていきたいと思っています。(加藤茂)

絵手紙のすすめ

絵手紙を月に2通も描きくれる季節の花の絵四年となりました。知り合いが私のことを詠んだ短歌です。短歌会の例会で手紙・葉書のお題だったと教えてくれました。

絵手紙を出すたびに葉書やメールで近況などを、また切手や食べ物を送ってくれる人もいます。私はその一つひとつのが好意に感謝をしながら一日に一枚の花を写生して絵手紙に描いて、送っています。そして、絵手紙でつながった交流をこれからも大切にしていきたいと思っています。(加藤茂)